



参考資料：「㊦古都のぶどう」 遠藤実さん 1995 年作
参考図書：「岡山のプロウ」 著者発行者岡本五郎教授

古都のぶどう年表 明治・大正

大化元年 (645 年)	居都郷 (こづのごう) と命名。 私達古都の農家はその子孫である。
明治 22 年 1889 年	町村制施行により、古都村となった。
明治 33 年	西崎嘉太郎氏、鈴木沢治氏が赤龍梨を植えたのが果物の始まり。
明治 36 年	古都の果実が、和気・赤磐・邑久・上道 4 群による果物共同販売組合に加わり販売。
明治 38 年	田中興惣太氏がキャンベルを植えた。
明治 40 年	岡山県果物同業組合が生まれ、小坂幾三郎古都村長が副会長に選任。
明治 44 年頃	赤龍梨は、晩三吉に代わり四万貫が生産され、京阪神、四国方面から朝鮮まで送り、遠藤平五郎氏は京城、西崎降治氏は平壤に赴いた。
明治 45 年	果物同志会がナシ 4 万貫 (150 t) を京阪神や四国方面、朝鮮にも出荷。
大正 8 年 (1919 年)	ナシ樹が老齢化し果物生産が衰え、挽回するために古都村長の西崎嘉太郎氏が会員制の古都果物会を結成しブドウ栽培を奨励。 水内八百三氏、西崎嘉太郎氏が砧木 (だいぎ: 接ぎ木の台にする木) を付けて栽培に成功。西崎嘉太郎氏が 30 坪の温室を作り、マスカットオブアレキサンドリアを植えた。



参考資料：「㊦古都のぶどう」 遠藤実さん 1995 年作
参考図書：「岡山のプロウ」 著者発行者岡本五郎教授

大正 15 年	<p>西崎勝文氏は東京鈴木商店（現東京青果）へ温室プロウを初出荷し、それが岡山県東京出荷の始まり。</p> <p>西崎氏は、電報が来ると温室プロウを持って汽車で上京。銀座の千疋屋も数回にわたり西崎氏宅を訪れている。</p> <p>7月に㊦果物出荷組が設立。</p> <p>遠藤春太郎氏が組合長となり、出荷・販売の改善・拡大を目標にプロウの共同出荷を始めた。</p>
大正 16 年	<p>古都果物会は解散され、㊦果物出荷組合に合流。</p> <p>兵庫県滝野、姫路へ出荷。当時組合員 80 名、面積 30ha。</p> <p>九州へ貨物輸送。生産量は貨物 3 輛程度。</p>